

定山溪地区の

取り組み

温泉地として多くのホテル・旅館を有する定山溪地区。平成18年から、地域と観光協会、旅館組合、札幌市が協同して、生ごみ堆肥化に取り組んでいます。

ホテルなどから出た生ごみを毎日集めて堆肥化し、それを使って定山溪近郊の農家の方が農作物を作り、それをホテルなどの食材として活用するという、生ごみを循環させるエコな取り組みです。昨年9月に行われた「ぐるりエコ収穫祭2007」では、この農作物の直売会を実施。売れ行



▲たくさんの人でにぎわったエコ収穫祭



定山溪連合町内会
総務部長 石井 國光さん

きは大変好調で、農家の皆さんは農産物を調達するため、イベント会場と農園を何度も往復していました。

生ごみ堆肥化の参加者は、ホテルや旅館だけではなく、地元病院や小中学校も積極的に参加しています。平成18年12月1日から3カ月間は一般家庭200世帯も参加するなど、地域ぐるみでごみ減量に取り組んでいます。定山溪連合町内会で総務部長を務める石井國光さんは「地域一丸となってごみ減量に取り組んでいます。今後も活発に活動していきたいですね。今年は、旅館組合や観光協会と連携してごみ拾いも行います。こうした取り組みが、ほかの地域でも広がるとうれしいですね」と話します。

身近なことから始めるのが大事なだね!



くま太郎くん、わかった?

～生ごみとカラス対策～

○ カラスが増えた原因は?

都会でカラスが増えた大きな原因は、食べ物となる生ごみが豊富にあることによります。また、人のそばにある生ごみを得ることにより、人を怖がらなくなり、巣作りも、より人の近くでできるようになりました。カラスの数は食物の量によって決まります。巣の撤去や捕獲を行っても、食物の量が多ければほかの場所から流入してしまい、減ることはありません。



○ カラスを減らすには?

根本治療はごみ対策です。ごみを減らし、ごみ出しマナーを徹底しましょう!

1. 生ごみを減らす
2. 生ごみは新聞紙や内袋などで包み、外から見えないようにする
3. 収集日・収集時間を守る
4. ネットなどでごみを覆う



○ 人を襲うカラスとは?

人を襲うカラスはごく一部で、多くは威嚇にとどまります。威嚇は、巣の中の卵やひなを守るための行動で、繁殖期の5～7月、中でもひなが巣立つ6月に多くなります。どうしても巣の近くを通らなければならない場合は、傘を差したり、帽子をかぶったりすることにより被害を少なくすることができます。

○ 威嚇・攻撃が激しい場合は?

カラスは巣を撤去しても近くに営巣することも多く、駆除の効果が少ない鳥ですが、威嚇行動があまりにひどいときは巣の撤去も被害を防ぐ一つの方法です。市では民有地に営巣した巣の撤去は行っていません。営巣している土地や樹木の所有者(管理者)の判断で行われます。※巣の中に卵やひながいる場合の巣の撤去は、市の許可が必要になります。



◀ 樹木に作られたカラスの巣(中央)

問 い 合 わ せ 先

公園・街路樹にできた巣について	南区土木センター公園緑化係	☎ 581-3811
卵やひなのいる巣の撤去申請	環境局みどりの管理課	☎ 211-2536

